

2020年1月17日

公益社団法人日本義肢装具士協会
トーゴ・パラアスリート支援プロジェクト
～2019年12月活動報告～

WG 担当者：

坂井一浩（JAPO パラスポーツ支援ありかた WG 委員長）
楡木祥子（同 WG 担当理事）
沖野敦郎（株）OSPO オキノスポーツ義肢装具
Aduayom-Ahego Akouetevi（株）ドリームジーピー研究開発室

1. 活動の経緯と目的

平成30年度第5回理事会において「トーゴ切断者への支援」が審議され、承認された。本事業の趣旨は、トーゴを含めた発展途上国における障害者のスポーツ参加を促進することであり、これにより同国・地域の障害者を勇気づけようとするものである。

はじめに Aduayom-Ahego Akouetevi 氏を本プロジェクトのカウンターパートとし、支援対象者の人選を依頼した。結果、Kuakumensah Kodjo Edem 氏（トーゴ人、左膝離断）が選ばれ、本協会は Kuakumensah 氏に対してスポーツ義足の提供やトレーニング等の支援を行って2020年東京パラリンピックへの出場を目指すこととなった。

2019年4月3日から10日の間、Kuakumensah 氏へのスポーツ義足の提供と練習指導を行うことを目的に、沖野敦郎氏（株）OSPO オキノスポーツ義肢装具）、前出の Aduayom-Ahego 氏、およびカメラマンを現地トーゴ共和国へ派遣した。現地にて義足を製作するとともにトレーニングを行った結果、最終日に計測した100m走のタイムは38秒71であった。

そこで今回は、Kuakumensah 氏へ提供した義足のフィッティング（切断端の状態含む）のチェック、および100m走のトレーニングとタイムの計測を目的に同氏を日本へ招聘した。

【 Kuakumensah 氏のプロフィール 】

トーゴ人、男性、36歳、177cm、74kg、左膝離断
（6歳の時、交通事故による）



図1：Kuakumensah 氏
（ウエアはクレーマー・ジャパン提供）

2. 2019年12月の活動

12月9日

深夜 Kuakumensah 氏が羽田空港へ到着。

12月10日

坂井、沖野、NHK・竹下氏がホテルにて Kuakumensah 氏へ面談。トーゴでの状況を聞くと共に切断端のチェックを行う。常用義足の適合不良による断端末の開放創を確認。

ブリリアランニングスタジアム（新豊洲）にて、やり投げ大腿義足アジア記録保持者の眞野雄輝選手と共に体幹を中心としたトレーニングを行う。

12月12日

熊谷スポーツ文化公園陸上競技場にて（株）クレーマージャパンよりウエア、ユニフォームの提供を受ける（図1）。その後（株）クレーマージャパン社訪問。

100m の計測を行い、25 秒 27、23 秒 02 と自己記録を更新。

12月13日

（株）OSPOオキノスポーツ義肢装具にて義足の調整：

スポーツ用義足ソケットは少し緩くなっていた為パッドで調整。

12月14日

ブリリアランニングスタジアムにて山本篤選手より、ストレッチから走り出すまでのウォーミングアップ、走るために必要な動き（ドリル）やスタート方法の指導を受ける（図3）。

その後、山本選手、Kuakumensah 氏、Ahego 氏、坂井 WG 委員長らが NHK 等メディアの取材を受ける。

12月15日

13時よりオスポランニング教室に参加（図4）。

小児から年配者まで様々な年齢層の切断者と交流することで、Kuakumensah 氏自身を感じているかもしれない疎外感を減らす（切断者は世界各国にいることを体感してもらう）。

12月16日

12時より東京都障害者総合スポーツセンターにて 100m の計測を行う（東京パラ参加標準記録は 15 秒 60 であるが、当面の目標として 20 秒切を目指す）。

義足側に荷重できるようになってきたため、板バネの CAT を 3 から 4 に変更して挑戦。結果は 22 秒 32、21 秒 48 といずれも自己記録更新。20 秒切とはいかなかったが、現状ではベストを尽くしたと思われる。同日帰国。



図2： 日常用義足（左）とスポーツ用義足（右）。
ソケットと膝継手は兼用。Mensah 選手自身で義足の部品交換を行う



図3： 山本篤選手による指導



図 4： オスポランニング教室参加